

Winarart

● 初の北ローヌ特集。シラーのエlegance、再発見

「Winarart」 The Magazine for Wine Lovers

No.82
Spring 2016
1800yen + 税

特集

北ローヌ、 シラー、 ヌ

珠玉ワインの宝庫

見逃すまじ、
偉大なる産地



ワインフェアの街で
トレンドをリサーチ!
ワインハブ
香港

見て、聞いて、触って
納得の
ワインセラーを
選びに行こう!

ワインガイド
チリの
プレミアムワイン
50本テイステイング
来日生産者の
各国のワインほか
テイステイング合計
241本



アニエス・パケ

Agnès Paquet

アニエス・パケ
Agnès Paquet

1974年生まれ。両親が畑を所有していたが、ワイン造りは行なっておらず、畑の売却を考えていたときに、アニエスが一念発起。00年にドメーヌを構築し、01年から瓶詰めを開始した。明確な哲学を反映したワインは、著名な畑をもっていないにもかかわらず瞬く間にプロの間で評価され、ヴィンテージを経るごとに進化を遂げている。



「6月28日の雹により、ボマールの90%と、ブルゴーニュ・ブランの区画の100%が被害を受けた。だが通年で見れば生産者

がコントロールできる天候推移だった。むずかしかった12年、13年はピオロジックを完遂できなかったが、14年は最後までピオロジックを買けた。雹害に遭った区画以外は例年並みの収穫量だったので、満足している。収穫できたブドウはとても健全で、果皮・種・果梗がキレイに成熟した。白の酸は13年より少ないが、早



くから飲みやすく親しみのあるもの。赤の酸は例年並みで、かつタンニンが豊かなので、バランスがよく、マチエールとピュアさ、正確さを兼ね備えている。美しい品質を気に入っているが、すでに15年の前評判が高いので、リリースされる前から『偉大なヴィンテージの前の隠れた存在』になってしまいうことが残念。

Meloisey

ドメーヌ・ティエリー・ヴィオロ・ギュイマール

Domaine Thierry Violot-Guillemard

「雹害により、生産量は12年が80%減、13年は70%減、14年が60%減。3年連続で雹害に遭ったブドウ樹はストレスにより、もし雹害に見舞われなくても生産能力がすでに落ちている。回復には

時間がかかるから、長期的な収穫減は複雑な問題だ。またスズキの発生はほぼなかったものの、選果では雹害による乾燥果と、スズキの被害果を完璧に取り除く必要があった。少量のブドウでワインを

仕込むのは通常よりむずかしいが、幸いにも品質は美しい。ワインの色調は濃くないが、ピノ・ノワールは色調の濃さと品質の高さが比例する品種ではない。14年ならではのフィネスを表現できた」。



ティエリー・ヴィオロ・ギュイマール

Thierry Violot-Guillemard

1957年生まれ。80年より祖父の下で仕事を始め、翌年にドメーヌを継承。94年に現在のドメーヌの形となる。99年からピオロジックを実践。ともすれば「田舎くさい」とも言われがちなボマールを、エレガントに造り上げた第一人者。白も手がけ、「ピノ・ノワール、シャルドネを通して、テロワールの精緻を表現したい」と明言する。

Pommard

ドメーヌ・パスカル・ブーレイ

Domaine Pascal Bouley



パスカル・ブーレイ(中) Pascal Bouley

1952年生まれ。ドメーヌは戦後いち早く、50年代から自社瓶詰めを開始。パスカルが75年にドメーヌを継承。収穫の手伝いに来

たレイヤンヌと結婚する。87年生まれの息子ピエリックが、2005年の収穫より家業に参画し、14年より指揮を執っている。

「3年連続で雹害に見舞われた。雹害は量を著しく減少させるが、品質を損なうものではないことを強く言いたい。昔の雹害のヴィンテージは、独特の乾いた風味が生まれた。なぜなら雹害による乾燥果を取り除く技術がなかったからだ。しかし今日は畑や醸造所での選果の概念が浸透している。私たちも畑と醸造所で2度の選果を行ない、醸造所での選果には振動式選果台を導入した。振動式はベルトコンベアで乾燥果をふるい落とす。発酵槽に入れたブドウは見事に健全だ。ブドウは完熟していたので、ピジャージュを減らすなど

優しい抽出を心がけた。ワインにはチャーミングな果実味となめらかなタンニン、透明感や涼やかさがある。表情がとても豊かだ」。



Volnay